

# 道路改良の経済的效果に就て (二)

守屋秋太郎

## 目次

### 序論

- 一、(兵庫縣) 二號國道 自大阪府界(阪神國道)至神戸市内村地内(鈴鹿峠)
  - 二、(滋賀縣) 同 甲賀郡山内村地内(鈴鹿峠)
  - 三、(岐阜縣) 八號國道 自岐阜市八坂垣國道
  - 四、(山梨縣) 同 自南都留郡船津村
  - 五、(群馬縣) 九號國道 至東八代郡金生村
  - 六、(京都府) 府縣道 自前橋市(以上九月號)至高崎市
  - 七、(兵庫縣) 府縣道 伊丹尼崎港線
  - 八、(埼玉縣) 府縣道 忍松山線
  - 九、(千葉縣) 府縣道 吉田大和田線
  - 一〇、(青森縣) 府縣道 弘前鰐ヶ澤線
  - 一一、(福井縣) 府縣道 米ノ浦武生線
  - 一二、(島根縣) 府縣道 今市杵築線
  - 一三、(岡山縣) 府縣道 岡山西大寺線
  - 一四、(徳島縣) 府縣道 立江日和佐線
  - 一五、(高知縣) 府縣道 宿毛字和島線
  - 一六、(熊本縣) 府縣道 宇土綱津線(以上本月號)
  - 一七、(熊本縣) 二號國道 自飽託郡川尻町至八代郡太田郷村
  - 一八、(同) 府縣道 人吉日奈久線
  - 一九、(同) 府縣道 隈庄出水町線
  - 二〇、(同) 府縣道 木山植木線
  - 二一、(同) 府縣道 河内植木線
  - 二二、(宮崎縣) 三號國道 自宮崎市橘通五丁目至同市中村町二丁目
  - 二三、(同) 同 自東舊杵郡岩脇村大字幸脇字幸水至兒湯郡美々津町大字高松字上町
  - 二四、(同) 同 自東諸郡高岡町大字浦之名字山下町同郡同町大字浦之名字小崎
  - 二五、(同) 府縣道 宮崎熊本線
  - 二六、(同) 府縣道 椎葉細島港線
- (未完)

(六)

(1) 木炭木材搬出運賃低下に因る利益

一ヶ年 二五、五〇〇圓

算出の基礎

路線名 府県道久多京都線  
改良區間 自京都府愛宕郡花背村  
至京都府愛宕郡鞍馬村界  
延長 二、六七〇米

有效幅員 三・五米

路面舗造 砂利道

工費 三〇、〇二三圓

竣工年月 昭和九年三月

改良に因る效果

(一) 木材時價高騰に因る利益

一ヶ年 八三〇、〇〇〇圓

算出の基礎

改修前は搬出費に多額の運賃を要したる爲地元價格極めて低廉なりしも、改良の結果一時に地元價格高騰せり。本道路利用區域内に於ける木材は一〇〇萬圓なるを以て一石に付き八三錢の騰貴をみたるものとし、此が利益八三〇、〇〇〇圓となれり。

(二) 物資移入運賃低下に因る利益

一ヶ年 五、〇〇〇圓

算出の基礎

說苑

物資の移入數量は一ヶ年一〇〇,〇〇〇貫にして、改良前に於ては一貫に付一〇錢の運賃を要したるも改良後に於ては一貫の運賃五錢となり五,〇〇〇圓の運賃低減を見るに至れり。

(四) 新生産物品に因る利益

一ヶ年 一、〇〇〇圓

從來搬出不能にして殆ど無價値に等しかりし熊笹、薪、小柴等本道路改修の結果搬出販賣可能となりたる利益。

右(一)の利益

八三〇、〇〇〇圓

右(二)、(三)、(四)の合計

三一、五〇〇圓

其の他金額に算出し得ざる利益

一、交通所要時間の短縮

一、積載量の増加

一、市場取引關係の敏速

(七)

路線名 府縣道伊丹尼崎港線  
改良區間 自兵庫縣川邊郡伊丹町  
至同 縣尼崎市

延長六、四三三米

有效幅員八・一米

路面構造 混凝土鋪裝

工費 五七二、二三〇圓

竣工年月 昭和八年六月

改良に因る效果

(一) 貨物運賃低下に因る利益

一ヶ年 一九一、六二五圓

算出の基礎

改良前に於ては貨物自動車一臺の運賃五圓乃至八圓なりしも、改良後に於ては三圓乃至六圓となり即ち一臺に付一圓乃至三圓の低下を來せり。一臺の積載量を二噃とすれば一噃に付一圓乃至一圓五〇錢の低下となり、貨物自動車一日の通行量二二五臺中盈を一七五臺と假定し一臺二噃の貨物を積載するものとするときは一ヶ年の利益

一九一、六二五圓となれり。

( $175 \times 2 \times 5 \times 1.50 \times 365 = 191,625\text{圓}$ )

(11) 自動車運轉経費の軽減による利益

1ヶ年 二九、四七九圓

算出の基礎

イ、自動車「ガソリン」其の他消耗品の減 一・三三八圓  
自動車が改修された本道を通ずる場合と舊道を通ずる場合に場ける「ガソリン」の消費量を比較するに次の如し。

改良道

舊道

乗用車 ○・四 「ガロ」 同上の約三割乃至四割増

乗合車

○・五 「ガロ」 "

貨物車

○・六 「ガロ」 "

平均

○・五 「ガロ」 ○六・七五 「ガロ」

此れに依り自動車一日の通行量に就てみると、乗

用車五五臺、乗合車七五臺、貨物車一一五臺計三五五

臺にして「ガソリン」一「ガソリン」五〇錢もしくは

算すれば1ヶ年の利総 一一・三三八圓となれる。

改良道 (355×0.5×365=64,787.5) 一ヶ年ガソリン  
使用量

舊道 (355×0.675×365=87,463.125) 一ヶ年ガソリン使用量

$$(87,463.125 - 64,787.5) \times 0.50 = 11,337.812 \text{ 圓}$$

自動車修繕費の減 一・六六一圓

自動車が1回通行に要する修繕費は改良道路上に於て七錢五、舊道路上に於ては一六錢五を要するものと認め、これを以て自動車通行總量に對する1ヶ年の利総は一・六六一圓となれり。

$$(0.166 - 0.075) \times 355 \times 365 = 11,661.75 \text{ 圓}$$

ヘ、車體消却費の減 六・四七九圓

一臺一日の消却費は改良道路上に於て五錢、舊道路上に於て一〇錢を要するものと認めるを以て自動車通行總量に對する1ヶ年の利総は六・四七九圓となれり。

$$(0.10 - 0.05) \times 355 \times 365 = 6,447.975 \text{ 圓}$$

(III) 路面修繕費の輕減に依る利総

$$1\text{ヶ年 } 11\text{・七八〇圓}$$

算出の基礎

舊砂利道に於ては1ヶ年修繕費 三・〇〇〇圓

改良鋪裝路面に於ては同 上 二三〇圓

即ち鋪裝道路に於ける一ヶ年の路面修繕費は改良前に

於ける三、〇〇〇圓に對し僅かに二二〇圓の少額となれり、其の利益二、七八〇圓となれり。

右(一)、(二)、(三)の合計額 二二三、八八四圓

其の他金額に算出し得ざる利益

一、通行時間の短縮及之に依る運送能力の増加

一、本改良道路を利用する人の時間的經濟

(八)

路線名 府縣道忍松山線

改良區間 自埼玉縣北埼玉郡忍町

延長 三、六一〇米

有效幅員 四米乃至四・五米

路面構造 澄青乳剤マカダム鋪装

工費 一五、二〇〇圓

竣工年月 昭和九年十一月

改良に因る效果

算出の基礎

(一) 貨物運賃低下に因る利益  
忍町を中心とし附近に於ける諸貨物の移出入量を一ヶ

年約二、三九四、七〇〇貫とし、改良の結果貨物輸送運賃は大體に於て一貫に付一錢の減額と見らるに付總量に於て二三、九四七圓となれり。

(二) 道路維持費の輕減に因る利益  
一ヶ年 四六二圓

算出の基礎

改良前に於ける維持費は平米當四錢を要し總面積一八、五〇七平米に對し年額七四〇圓を要したるも改良後に於ては、平米當一錢五厘となり年額二七八圓を以て足れるに至れる爲其の利益四六二圓となれり。

右(一)、(二)の合計額 二四、四〇九圓

其の他金額に算出し得ざる利益

一、鋪装の結果沿道商家に於ける商品に對する損害及農

### 作物の被害減少

一、運輸機關の高速化及其の性能發揮に依り商工業の發展

### 展化

一、生産物貨の販賣地域の擴大に依る利益

一、自動車交通量の增加

一、沿道家屋の增加

(九)

路線名　府縣道吉田大和田線

改良區間　千葉縣印旛郡阿蘇村下市場村上米本地先

延長　四、一七七米

有效幅員　五・五米

路面構造　碎石道

工費　三二、〇五六圓四〇錢

竣工年月　昭和十年三月

改良に因る效果

(一)　運賃の低下による利益

一ヶ年　七、九〇六圓

### 算出の基礎

改良の結果貨物自動車の通行可能となれると、車馬に於ける積載量増加の爲地元產出農產物、需要肥料等の輸送運賃次の如く低下せり。

運搬貨物	數量	單位運賃		總額
		改良前	改良後	
米	一一、八〇〇袋	三〇錢	一五錢	一、七七〇円
麥	六、〇〇〇袋	二五錢	一二錢	七八〇
牛蒡	五〇、〇〇〇袋	一〇五錢	五五錢	二五〇
蕓	一〇、八〇〇枚	三	二	一〇八
大豆粕	一、〇一六枚	一枚	一〇	五〇八
過磷酸石灰	七、六二〇袋	一〇	五	三八一
配合肥料	一〇、一六〇袋	一二	六	六〇九
甘藷	三五、〇〇〇袋	二〇	一〇	三、五〇〇
計				七、九〇六

以上に依つてみると、道路改良後に於ける物貨の輸送運賃は改良前に比し大體其の半額に低下せるに至れり。

(二)　金肥豆粕節約による利益

一ヶ年　一三、八二五圓

## 算出の基礎

有效幅員

四・五米乃米八・〇米

道路改良の結果東京より移入せらるゝ人糞年一七、五

路面構造

「セメント」混凝土「アスファルト」混凝土

一〇石にして、金肥一枚の價額は一圓八〇錢、その肥料

工 費

九四、七九一圓

砂利道

價値は人糞一石六斗六升に當り、人糞一石六斗六升は四

竣工年月

昭和九年三月

改良に因る效果

九錢なり、故に金肥一枚節約により一圓三一錢の肥料代

改

功年月

昭和九年三月

改良に因る效果

を節約し得るなり總額に於て一三・八一五圓の利益となれり。

(1) 貨物運賃低下に因る利益

1ヶ年 四一一、一六二圓

(17,520÷1.66=10554 131×10554=13,825.74圓)

改

良年月

昭和九年三月

改良に因る效果

右(1)、(11)の合計

一一・七三一圓

算出の基礎

其の他全額に算出し得る利益

1、利益の増加に因り地元民の農業への精勵の傾向

本道路沿線部落村の生産品林產物、米穀、穀、木工品等の移出に對する運送費は改修前に比較し平均一割七分の輕減を來し此の利益金額四一一、一六二圓となれり。

1、車馬の積載量、荷車一臺三〇貫、牛馬車一臺九〇貫

其の他金額に算出し得る利益

1、交通の安全並保障

增加の爲、肥料運搬、收獲物搬出上能率増進せり。

1、文化の向上

1、保安、衛生改善の發達

(10)

路線名 府縣道弘前鶴ヶ澤線

改良區間 自青森縣中津輕郡和德村

至同 縣同

郡高杉村

延長 一三・〇耕

(11)

路線名

府縣道米ノ浦武生線

改良區間

自福井縣圓生郡白山村  
至同縣同郡城崎村

延長

六、七一三米

有效幅員

四・五米乃至五・五米

路面構造

砂利道

工費

一三九、九九六圓

竣工年月

昭和十年七月

改良に因る效果

(一) 貨物運賃低下に因る利益\*

關係區域	農產物			林產物			水產物			其の他			利益額計
	町村名	數量	搬運費	單價	利益額	數量	搬運費	單價	利益額	數量	搬運費	單價	
雄島村	四六噸	一五・〇	六、四二円	一・〇	三・〇	三〇噸	一一・〇	一・〇	一・〇	一〇噸	五・〇	一・〇	一〇〇〇
白山村	三三噸	一・九六	一・九六	一・〇	一・〇	三三噸	一・九六	一・〇	一・〇	一〇噸	五・〇	一・〇	一〇〇〇
合計	八、要八	八、要八	八、要八	一、九六	一、九六	八、要八	一一・〇	一、九六	一、九六	八、要八	八、要八	一、九六	一、九六

(二) 生産品販賣價格騰貴に因る利益

一ヶ年 一一、三五一圓

算出の基礎

\*一ヶ年 一一、二九一圓

算出の基礎

城崎村より武生町に至る貨物輸送運賃の實例について  
みると、本道改修前に於ては米一俵に對し七〇錢を要し  
たるも改修後に於ては二〇錢に低下し、鮮魚一〇貫に對  
し一圓五〇錢を要したるも改修後に於ては六〇錢となり  
何れも改修前に比較し半額以下となれるに至れり。今此  
の運賃の低下を各種物産に付いて調査すれば次の如  
し。

魚類、蔬菜類其他生産物の鮮度高上に因る市價の騰貴  
及從來無價値物なりしもの交通の便と搬出可能とにより  
有價値となりたる物等を計算するに左の如し。

農產物	林產物	水產物	一日交通量	一人一日利益	一人年利益	利益計
數量 運搬 利益	數量 運搬 利益	數量 運搬 利益	三七〇人	一〇錢	三六・五〇	一、三五〇圓
單價 利益額	單價 利益額	單價 利益額				
三五 一分	三五 二二	三五 五分	一〇〇人	一〇〇人	六四割	一〇〇人

## (III) 生産費遞減に因る利益

一ヶ年 二五、四七二圓

## 算出の基礎

本道路の改修に因り労働能率の増加を來し生産費を遞減したるを以て之れを一人一日一錢平均と認め計算す。

關係町村人口	一日一人當 利益	一年 利益	總人口	一日交通量	一人一日利益	一人年利益	利益計
六、九七九人	一錢	三・六五	二五、四七二圓	三七〇人	一〇錢	三六・五〇	一、三五〇圓

## (IV) 時間節約に因る利益

一ヶ年 一、三五〇圓

## 算出の基礎

改修前は武生方面に往復二日を要したるも改修後は一日に往復し得らるゝに至りたるを以つて一日一〇錢を見

込み交通量に依り算出すれば次の如し。

路面構造	砂利道基礎栗石
工 費	一八七、五四五圓
竣工年月	昭和九年十二月

右 (I), (II), (III), (IV) の合計額	六〇、四六五圓	右 (I), (II), (III), (IV) の合計額	六〇、四六五圓
其の他利益		一、自動車機能發揮に依る産業の振興交通の發達	
		一、災害の防止及損害の減少	

## 一、沿道及附近地價の騰貴

## 一、衛生状態の改善

## 一、通學の便に依る學校の整理統一

## 改良による效果

(1) 貨物運賃低下による利益

1ヶ年 四三〇一圓

## 算出の基礎

本道に依り輸送される貨物のうち米、繭、畑作、漁獲物等主要なるもの、運賃に付き本道改修前と改修後とを比較するに大體本道の改修に依り此等生産物の運賃は從來の二分の一の輕減を見るに至れり。今改修前と改修後に於ける此等各種の生産物の運賃を比較調査するに次の如し。

區 分	米	繭	畑作	漁獲物	計
全延長石	全延長十貫	同上	同上		
當輸送費	當輸送費				
改修前	0.500	1.000	0.500	0.500	
改修後	0.100	0.500	0.050	0.050	
一ヶ年輸送量	二元 五百六 石	10K 圓	10K 圓	10K 圓	30K 圓
同上利益金	五百八 元	四 百 圓	一百 圓	一百 圓	八百 圓

即ち本道改修の爲め生産物貨物輸送運賃の輕減に因る

利益一ヶ年四三〇一圓となれり。

(1) 自動車旅客運賃低下による利益

1ヶ年 四九六四〇圓

## 算出の基礎

イ、乗合自動車運賃の低下に因る利益 三五〇四〇圓

改良前に於ては、全延長區間一人當り四〇錢なりしも、改良後に於ては二〇錢となり、從來の二分の一に低下を見るに至れり。乗合自動車の平均運轉回數を十二人乘一臺一日四〇回とすれば一ヶ年一七五、一〇〇人にして一ヶ年の利益三五〇四〇圓となれり。

$$(12 \times 40 \times 365 \times .20 = 35,040\text{圓})$$

ロ、貸切自動車料金低下による利益 一四六〇〇圓

改良前に於ては全延長區間一臺三圓なりしも、改良後二圓となりたるを以て、一日平均四〇臺とすれば一ヶ年の利益一四六〇〇圓となれり。

$$(40 \times 365 \times 1.0 = 14,600\text{圓})$$

(1) 自動車「ガソリン」消費量減少による利益

一ヶ年 七、三五九圓

### 算出の基礎

本道改修前に於ける自動車一糸當り「ガソリン」消費量は〇・一〇「ガロン」にして今一「ガロン」四二錢とし、

本道延長約八糸に要する「ガソリン」費は三三錢六となり一日平均一〇〇臺とする時は一ヶ年一二、二六四圓を

要したるも改修後に於ける一糸當り消費量は四錢となり

従つて一ヶ年に要する「ガソリン」費は四、九〇五圓の少額を以つて足るに至り其の利益は七、三五九圓となれり。

### (四) 生産額増加に因る利益

一ヶ年 二一四、〇〇〇圓

### 算出の基礎

改修後に於ける一ヶ年生産年額三、〇六五、〇〇〇圓の七分を本道改修の爲增加したものと認定す。

右(一)、(二)、(三)、(四)の合計額 四一四、〇一〇圓

其他金額に算出し得ざる利益

一、交通運輸の敏捷

一、商工農業の發達

一、社交の發達

一、衛生状態の改善

一、沿道地價の騰貴

一、水火災其の他災害の防止

(一三)

路線名 府縣道岡山西大寺線

改良區間 自岡山縣上道郡富山村

至同 縣邑久郡邑久村

延長 七、一一八米

有效幅員 五・五米乃至六・五米

路面構造 砂利道

竣工年月 昭和九年三月

改良に因る效果

(一) 運賃低下に因る利益

一ヶ年 三六一、〇八〇圓

### 算出の基礎

本道改修に依り、乗合自動車、乗用自動車、貨物自動車、荷車等の運賃の輕減せるものを比較調査するに次の如し。

種別	一日平 均臺數	改良前 臺賃金	改良後 臺賃金	低下額	一日 利益額	利益額
	三六	三・五〇〇	一・五〇〇	三・五〇〇	二〇・〇〇	二〇・〇〇
荷車	三六	三・五〇〇	一・五〇〇	三・五〇〇	二〇・〇〇	二〇・〇〇
貨物自動車	二四	四・〇〇	一・五〇〇	三・五〇〇	二七・〇〇	二七・〇〇
乗合自動車	一回本均六人乘 二三〇	〇・〇〇〇	〇・〇〇〇	〇・〇〇〇	三一・〇〇〇	三一・〇〇〇
乗用自動車	一五	四・〇〇	一・〇〇〇	三・〇〇〇	三六・〇〇〇	三六・〇〇〇
計					三三・〇〇〇	三三・〇〇〇

一、自動車運轉所要時間の短縮  
 一、自動車利用の増加  
 (一) 路線名　府縣道立江日和佐線  
 改良區間　至同　島縣那賀郡羽ノ浦町  
 延長　二、五八九米  
 有效幅員　七・五米(道路)  
 六・〇米(橋梁)  
 路面構造　路面砂利道、橋面アスファルトプロツク  
 工費　二六九、四〇七圓  
 竣功年月　昭和三年十月

(二)

### 地價騰貴による利益

八七、〇〇〇圓

改良による效果

### 本項は之を一ヶ年の利益額として算出することは不可能なる問題なるも今試みに調査せるに地下の騰貴したる

年額　三、三一三圓(一日自動車九四臺)

### (一) 自動車修繕費の節減

(一) 自動車「ガソリン」其の他消耗品費の節減  
 年額　三、七〇五圓(同上)

### 其の他の金額に算出し得ざる利益

一、幅員擴張及屈曲緩和に依り交通事故の減少

年額　六五、七〇〇圓(一日貨物自動車二四臺)

(四) 架橋前に於ける渡船費の節減

年額 三、六一三圓

(五) 沿線地價の騰貴 八六、〇〇〇圓

右(一)、(II)、(III)、(四)の合計 七六、三三一圓

其の他金額に算出し得ざる利益

一、那賀川には從來完全なる橋梁なく出水の際は交通社

絶せしも本橋の架設に依り其の危を免れるに至れり。

一、交通量の激増と輸送時間の短縮

一、通學通勤の利便著大

一、輸送の安全を確保し物資の配給を敏活ならしむるに

至れり。

一、大量輸送を可能ならしめ有事の際特に效果大なるも

のありと認めらる。

一、景勝地、神社、佛閣の參拜遊覽者の利便著大なり。

(一五)

其の他金額に算出し得ざる利益

一、交通の利便に伴ひ文化の發展向上

一、産業の開發

一、經濟更生

路線名 府縣道宿毛宇和島線  
改良區間 自高知縣幡多郡宿毛町  
至愛媛縣界

延長 一一、一九三米

有效幅員 三・六米 (道路)  
四・五米 (橋梁隧道)

路面構造 砂利道

工費 一六七、二六四圓

竣工年月 昭和十年六月

改良に因る效果

(一) 貨物運賃低下に因る利益  
一ヶ年 一四四、五四二圓

算出の基礎

種別	一日通行臺數	一日間二料當延積載重量	一ヶ年間全延長積載重量	一日間一料當利益金額	計
貨物自動車	一〇	一五〇〇〇	六一、六一、六七五	六モ一	三モ二
馬車	五〇	四〇〇〇〇	二五、六一、六七五	六モ一	一〇モ一
計					一四四、五四二

(I-k)

路線名

府縣道宇土網津線

改良區間

自熊本縣宇土郡宇土町  
至同縣同郡網津村

延長

六,〇〇〇米

有效幅員

五・五米

路面構造

砂利道

工費

六八、三五〇圓

竣工年月

昭和十年三月

改良に因る效果

(1) 貨物運賃低下による利益

一ヶ年 六、三九〇圓

算出の基礎

イ、米麥運賃低下 四、〇一〇圓

沿道町村に於ける一ヶ年の米麥産高は米一四、九九

〇石、麥八、八四〇石、其の内本道路に依り輸送される  
數量は米九、〇〇〇石、麥五、三〇〇石なり。然し

て改良後に於ては此等の運賃は改良前に比較し石當り

米三〇錢、麥一五錢の輕減を見るに至りたる爲此の利  
益一ヶ年四、〇一〇圓となれり。

米 ( $9,000 \times 30 = 2,700$ 圓)

麥 ( $5,300 \times 25 = 1,320$ 圓)

日、工場誘致による利益

(1) 工場誘致による利益

一ヶ年 三六五、〇〇〇圓

算出の基礎

本道改修に因り鐘紡工場(敷地一九〇、〇〇〇坪買收  
濟にして基礎工事中)を誘致するに致りたる爲工場從業

員千人と推定し、賃銀平均一人一圓として算定するとき  
は一ヶ年の利益三六五、〇〇〇圓となれり。

(III) 地價騰貴による利益 七、二五〇圓

算出の基礎本道改修と共に沿道地價の騰貴を見るに至

りたるもの次の如し。

種別	面積	賃費率	賃費額
宅地	二、〇〇〇坪	坪當一・〇〇〇円	二、〇〇〇圓
田畠	八五町歩	一反當五・〇〇〇	四、二五〇圓
畑	二〇町歩	一反當五・〇〇〇	一、〇〇〇圓
計			七、二五〇圓

右(一)、(二)の合計額 三七一、三九〇圓

其の他金額に算出し得ざる利益

一、幅員の擴張に依り自動車交通の發達可能となる

一、主產能力の增加

## 三重縣矢ノ川峠の開鑿成る

J T 生

一號國道を松阪市で岐かれ北牟婁郡長島町、尾鷲町を経て南牟婁郡木本町に至る府縣道津木本線は指定府縣道であり所謂熊野街道として南紀地方交通の重要な幹線であるが、尾鷲、木本間に海拔八〇〇米の高峰矢ノ川峠が介在して、南北の文化を遮断し、僅かに一、六〇〇米の索道と崎嶇羊腸の小徑を以て、幸ふじて其の連絡を保ち行路の難險をかこつこと久しいものがあつた。

三重縣當局は道路政策上夙に之が改良の必要を認めてゐたが偶々鐵道省が此の路線に省營バスを計畫したのを契機として、之に工事費の一部を負擔せしむることゝし、昭和九年六月實施設計に付、内務大臣の認可を受け更に其の工事費の一部に付ては農村振興事業として國庫の補助を受け同年九月工事に着手してより工を積むこと二星霜、昭和十一年九月其の完成を見るに至つたのである。工事は株式